

通信



あむーる

編集：八幡成人（やわたしげと）

「チーム八ちゃん」ホームページ：<https://teamhacchan.wordpress.com/>

5月第3号

▶今回は、北高卒業生の**大谷はんな**さんについて書きます。彼女は在学時代英語が抜群だった生徒です。もちろんセンター試験は筆記モリスニングもオール満点！受験した大学は全て合格、東京外国語大学・英米を蹴って、**国際基督教大学（ICU）**へ進学しました。彼女が当時私に言った言葉「**私は英語の勉強がしたいのではありません。英語を使って仕事がしたいんです**」は、今でも強烈な印象として八幡には残っています。彼女はICUからフランスに留学後、アフリカに行って勉強し、**ハーバード大学・大学院修士課程**に進みました。「**毎週半端でない量の英語を読まなければ、ディスカッションに参加することができないので、初めの頃はとてつきつかった**」と語っていました。アフリカの恵まれない子どもたちのために働きたい、という夢を熱く語ってくれました。今は公益財団法人「**日本財団**」で高校時代の夢を実現して、英語を使って国際交流の仕事に活躍しています。やはり「強い夢」は実現するものです。当時、**国際基督教大学**についてレポートしてくれたものを再録しておきます。あ、この2月に経営戦略コンサルの「**マッキンゼー**」に転職したそうです。♥♥♥

国際基督教大学の勉強について

国際基督教大学 大谷はんな

こんにちは、現在**国際基督教大学（ICU）**の二年生の**大谷はんな**と申します。ICUは入学したらみんな**教養学部のアーツサイエンス学科**に入り、三年生になると、興味のある専攻（メジャー）を選びます。私は今のところ発展途上国の子供の生活について知りたいと思い、**比較教育と開発学**のダブルメジャー（二重専攻）にする予定です。**比較教育**とは様々な国の教育制度や教育環境について調べ、比較する学問です。国によって所得、文化、宗教、言語、など多様な

要素の影響を受けて本当にいろんな種類の教育制度があります。**開発学**とは発展途上国の事情について学び、その国がどういう政策をとり、他の国々がどう支援したらより安定した発展を維持できるか、様々な学問（教育、経済、政治等）から研究する学問です。



ここでまず**ICU**について知っている方はとも少ないと思うので紹介します！

ICUはいちおう東京にある私立の大学です。いちおうと言ったのは、**ICU**は自然にあふれていて「東京」というイメージから離れているからです。建物は森に囲まれていて敷地の真ん中にはバカ山、あほ山、という中くらいの丘があり、生徒はよくそこでご飯食べたり、おしゃべりします。私は、この自然は生徒の心に余裕をもたらしていると思います。敷地内に幼稚園と教員住宅があるため、小さい子供もよく見かけます。ネコやタヌキもよく見かけます。春には桜、夏は青い芝生、秋は紅葉、冬はきれいな星空が見えます。授業が終わって疲れていても、建物から出たときにきれいな夕焼け見たり、のんびり散歩することで回復します！

ICUの学生も特徴的です。帰国子女や留学生が多いこともあり、自分の意見を共有しようとする人が多いです。つまり議論することが好きな学生が多いです。頑固なわけではなく、ただいろんな人と意見を交換したいと思っている人が多いのです。また、「自分

の世界」を持っている人が多いです。自分がどのようなことを好きで、そのために何をしているのか、について語ってくれる友達がたくさんいます。授業でよく**why?**を問え、と言われることもあって、みんなよくなぜその問題自体が起きたのか議論することも多々あります。自分は他人と変わっていてもいいや、と思える人がたくさんいます。

ICUは英語が得意と言われますが、別に英語について学ぶわけではありません。あくまでも英語は話すための手段として使います。なので1年生の時に受ける英語のクラスは、英語の文法や読解というより、大学とは何を勉強するところか、批判的思考とは何か、等を英語で勉強します。英語を勉強したい人には向いていないと思います。英語で勉強したい人に向いています。**英語開講**（英語で行われている）の授業を受けると、留学生が多く受けており、彼らが多く発言することに刺激され、より積極的に自分から発言できるようになりました。逆に言うと、英語が得意だと**ICU**で受けられる授業が倍増します。

また**ICU**は学生が少なく、一学年500人程度です。でも教員はたくさんいるので、授業は少人数で行われることが多く（今学期受けた授業で全員で6人という授業がありました！）、何か困ったことがあったら、ふらっと先生のオフィスを訪れて相談することができます。授業では生徒と先生の関わりが重要視されている（先生が生徒と意見を交わすことは義務付けられているそうです）ため先生はよく生徒の意見を聞こうとします。生徒もよく意見を求められるため、自分の意見をはっきり説明しようとします。

では、私の**ICU**の生活について少し書きます！私はサンバ・サークルと水泳サークルに

入っています。サンパとはあのブラジルでリオのカーニバルとかで踊られている・演奏されている音楽です！すごい陽気で聞いているとつい体が動いてしまい、じっとしてられません！毎年浅草サンパカーニバルというサンパのコンクールみたいなものに出ている、現在もその準備をしています。他にも地元の祭りにも出せてもらっています♪また、ICUの寮に住んでいます。ICUは敷地が広いので、学生寮も敷地内にあり、徒歩1分くらいの距離にあります。寮行事がとても盛んで寮内、他寮、ともにたくさん交流できます！とにかく寮生みんなは温かく、一緒にいるのが楽しく、寮は私にとって第二の家です。本当に寮なしの大学生活は全く想像できません、というより想像したくないです！あと、私はこの夏からフランスに一年間留学します。交換留学なのでフランス語を学ぶためだけでなく、先ほど言った比較教育や開発学の授業をフランス語で受けます。ほとんどフランス語ができないのでとても不安ですが、それと同時にめちゃくちゃ楽しみです！

以上で、ICUに関する豆知識・私の大学生活コーナーを終わります！大学での時間は本当に貴重です！！今で出会ったことない人、知らなかった分野、本当にいろんな出会いがあり、今までの自分の考え方は狭かったということを実感させられます。大学によって特色があるので、できるなら学部だけでなく、雰囲気を知るために大学訪問することをお勧めします！私もICUのオープンキャンパスに行き、一目ぼれして、入りたくなりました(笑)。みなさんは今は勉強や部活で忙しく、大変だと思いますが一つだけアドバイスとして、とにかく何事も最後までねばり、やり遂げることが大切だと思います。何かをあきらめることは本当に簡単です。でもそれはくせになってしまいます。最後まで粘り続けて、大学生活最後までがんばったよー！！って言いきれないように悔いのないように頑張ってください。絶対にそのあとの自分の糧になります！ファイトーです！♥♥♥



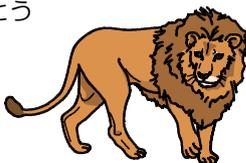
▲上の写真は松江北高生がアメリカ研修の時、案内してくれた大谷さんと一緒に記念撮影

「風に立つライオン」を薦める！

風に立つライオン

作詞・作曲 さだまさし

突然の手紙には驚いたけど嬉しかった
 何より君が僕を怨んでいなかったということが
 これから此処で過ごす僕の毎日の大切な
 よりどころになります ありがとう ありがとう
 ナイロビで迎える三度目の四月が来て今更
 千鳥ヶ淵で昔君と見た夜桜が恋しくて
 故郷ではなく東京の桜が恋しいということが
 自分でもおかしい位です おかしい位です
 三年の間あちらこちらを廻り
 その感動を君と分けたいと思ったことが沢山ありました
 ビクトリア湖の朝焼 100万羽のフラミンゴが
 一斉に翔び舞つ時 暗くなる空や
 キリマンジャロの白い雪 草原の象のシルエット
 何より僕の患者たちの 瞳の美しさ
 この偉大な自然の中で病いと向かい合えば
 神様について ヒトについて 考えるものですね
 やはり僕たちの国は残念だけれど
 何か大切な処で道を間違えたようですね



去年のクリスマスは国境近くの村で過ごしました
 こんな処にもサンタクロースはやって来ます 去年は僕でした
 闇の中ではじける彼等の祈りと激しいリズム
 南十字星 満天の星 そして天の川
 診療所に集まる人々は病気だけれど
 少なくとも心は僕より健康なのですよ
 僕はやはり来てよかったと思っています
 辛くないと言えば嘘になるけど しあわせです
 あなたや日本を捨てた訳ではなく
 僕は「現在(いま)」を生きることに 思い上がりたくないのです
 空を切り裂いて落下する滝のように
 僕はよどみない生命(いのち)を生きたい
 キリマンジャロの白い雪 それを支える紺碧の空
 僕は風に向かって立つライオンでありたい
 くれぐれも皆さんによろしく伝えてください
 最後になりましたが あなたの幸福(しあわせ)を
 心から遠くから いつも祈っています

さださんの歌詞には心に残る「フック」が掛けられています。さてどこだ？



おめでとう さようなら

●「風に立つライオン」は、大好きなさだまさしさんが1987年に出したシングル曲です。そんなに売れませんでした。しかしコンサートでは、フィナーレやアンコール曲として歌い継がれて、彼の代表曲となりました。恋人・家族を捨ててアフリカ医療へと旅だった医師が、恋人の結婚報告に接し、したためた手紙の形で己のアフリカ生活を振り返ります。この曲に触発されて、アフリカの地域医療を志した若い医者がたくさんいます。実は、この曲には実在のモデルがいます。さださんのお父さんの主治医の柴田統一郎(しばたこういちろう)先生です。さださんは20歳の時に、柴田先生から直接体験を聞き、それをなんと15年かかって曲にしたのです。

「第33回高校生英語弁論大会」に中国大会で優勝した松江北高・理数科の安楽万智子(あんらくまちこ)さんを引率して、宮崎市に行きました(全国第4位入賞)。偶然、その時の大会講演者が柴田統一郎先生でした。またこれも全くの偶然なのですが、安楽さんのお父さん(日赤)は、長崎大学で柴田先生に習っておられます。そのご縁で柴田先生と知り合う事が出来ました。幻冬舎から書籍化され(2013年)、大沢たかお主演で映画化されたのが2015年のことでした。柴田先生からは「5人映画館に連れて行くように」とのお手紙をいただき、PRして歩きました。医学を志す人は、ぜひDVDで観てください。♥♥♥



▲柴田統一郎先生の講演(宮崎)

★医学部志望の人は小説・映画を!